



大庄中は平成27年度に創立10周年、尼崎市は平成28年に市制100周年を迎えます

## 9月進路希望調査の結果（本校）

2学期の始めに、県教委に報告する進路調査の2回目がありました。

県全体の集計結果の発表は、9月末か10月始めになるということです。県教委は、9月のこの調査を資料として来年度の各高校の募集定員を決めていくとされています。中学生の進路希望は2学期末の進路懇談までなかなか定まらないことが多いので、9月というのは中学校側からすれば早いなあと思えますが、募集定員が決まらなと高校の教員数や教室の数も決められないということがあるようです。

今回は、本校の9月の進路希望の結果と6月の進路調査の結果とを比較してみました（下の表）。

### 公立全日制希望者が減少（本校）

全体としては、公立全日制の希望者が128人（学年の85.9%から114人（76.5%）と減少し、高専と私立通信制と就職等の希望者が増えました。9月調査での高校別希望者数は次の通りです。

尼崎西 30 県尼崎 14 尼崎小田 20 尼崎北 4  
 尼崎双星 3 市尼崎 3 尼崎稲園 2 武庫荘総 15  
 県尼崎工 4 県西宮 2 鳴尾 2 西宮今津 2  
 西宮東 1 西宮南 1 県芦屋 5 県国際 1  
 宝塚北 2 市科学技術 3

	6月	9月
公立全日制	128	114
公立定時制	6	4
公立通信制	1	1
高専	0	5
私立高校	9	8
特別支援学校	2	2
私立通信制	0	7
就職等	3	8

高校別希望者数は、市内・市外とも6月とあまり変わっていません。人数に動きがあったのは、尼崎西が52人→30人、尼崎小田10人→20人の2校でした。

## 公立の入試はどうなるか？

兵庫県公立高校は、平成27年度から新しい学区（通学区）での入試が始まります。そこで、公立高校の入試に関して、変わるところと変わらないところを整理してお知らせしたいと思います。

### 県下16学区が5学区に

大きな変更点は、これまでの県下16学区が5学区に改編され、受検できる高校が大幅に増えることです。具体的には、普通科の複数志願（3月）と特色選抜・コース（2月）については、尼崎市内の6校だけが受検可能だったのですが、平成27年度からは、西宮市・伊丹市・宝塚市・川西市・猪名川町・三田市・篠山市・丹波市にある27の普通科高校の複数志願と特色選抜・コースが受検できるようになります。ただし、これまでの「その他校」希望はなくなり、「第2志望」までしか志願できなくなります。

## 志願変更が少し変わる

志願変更は、複数志願実施校間では、第2希望の変更だけが認められるようになります。しかし、複数志願実施校から単独選抜実施校（とその逆も）、複数志願実施校から定時制（とその逆も）、単独選抜実施校から定時制（とその逆）、単独選抜実施校から単独選抜実施校への志願変更は、従来通り可能です。

## 単位制と総合学科の受検校が増える

尼崎稲園など県下に8校ある単位制と武庫荘総合など15校ある総合学科の推薦入試は、従来通り全県学区で行われます。しかし、3月の学力検査では、これまでは尼崎学区の尼崎稲園と武庫荘総合しか受検できませんでした。学区が拡大されましたから、第2学区内の県西宮・三田祥雲館（以上単位制）、西宮今津・伊丹北・有馬（以上総合学科）も3月に受検することができるようになります。

また、単位制と総合学科は、これまでは単独選抜でしたが、27年度入試からは、複数選抜に含められますので、3月の学力検査で、単位制が第1志望で総合学科が第2志望、単位制が第1志望で普通科が第2志望、総合学科が第1志望で普通科が第2志望というパターンの受検も可能になります。

## 職業学科と特色ある専門学科は？

工業・商業・農業などの「職業学科」と音楽・体育・美術・演劇・国際などの「特色ある専門学科」（合わせて県下で52校）の受検については、従来と同じ全県学区で行われます。2月の推薦入試で定員の100%を募集する高校と推薦入試で50%・3月の学力検査で50%を募集する学校とがありますが、どちらも従来通り全県学区で入試が行われます。

## 合否判定の方法は？

学力検査で、内申250点（5教科は×4点、実技4教科は×7.5点）＋学力検査250点（入試5教科テスト×0.5）の合計500点で合否判定が行われるのは、変わりありません。ただし、複数志願の第1志望可算点が、これまでの15点（尼崎）から20点（第2学区）になり、第1志望が従来より有利になると予想されます。

## 入試がむずかしくなる？

選択肢が増えることで、「1日目だから模様ながめになって大きな変化はないだろう」、「市町の境目に近い学校（尼崎西？武庫荘総？尼崎北？市尼崎？尼崎双星？…）の受検者が増えるだろう」、「尼崎は入試のレベルが上がってむずかしくなるだろう」…など、いろいろな予想が聞こえてきます。しかし、県教委の調査でも、高校別の希望者数しかわかりませんし、3月の学力検査については、2月下旬の出願と志願変更が終わるまで、どの高校にどんな成績の生徒が何人受検するかも確定しません。生徒個々の志望校も、これから進路懇談まで変わっていきますし、実際のところは、全ての入試が終わって合否がはっきりするまではわからないというのが正直なところです。

中学校としては、過去の学校独自のデータや市内全体のデータをそのまま当てはめることはできませんので、第2学区内の他市の校長会・進路対策委員会とも連携しながら、情報交換やお互いの資料を交換するなど、生徒個々の進路希望がかなえられるように進路指導を行っています。入試がむずかしくなっても（レベルが上がっても）、志望校に合格できるように、日頃の学習の積み重ねと実力をつけることを続けて行ってほしいと思います。

## 新着任教職員の紹介

9月16日（火）より、病休休暇中の住田 訓平 教諭の代わりに社会科担当として、松永 詩歩 臨時講師が着任いたしましたので、お知らせします。  
 （文責：校長 福井 隆夫）